

ナイジェリアの政党の変遷

| | |
|-----|--|
| 著者 | 戸田 真紀子 |
| 権利 | Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp |
| 雑誌名 | アフリカレポート |
| 発行年 | 1991-03 |
| 出版者 | アジア経済研究所 |
| URL | http://hdl.handle.net/2344/00008628 |

ナイジェリアの政党の変遷

戸田真紀子

はじめに

ナイジェリアにおける二党制導入については、さまざまな議論がなされてきた。ナイジェリアには約300の民族が存在する。そのうちでHausa-Fulani (北部), Yoruba (西部), Ibo (東部) の三大民族がそれぞれ政党を形成し、「教をめぐる政治」を行ない長く対立してきた。ナイジェリアのような多極社会に二党制が不適切であるということは、独立まもない頃から指摘されている。現政権が民政移管プログラムにおいて二党制の採用を決定してから、何らかの施策を行なわない限り南北間で民族対立もしくは宗教対立の起こる可能性が大きいといわれてきている。

確かにナイジェリアにおける南北間の亀裂には深いものがある。しかし、独立以前からの政党の変遷をみるかぎり、単純に民族／宗教ラインに基づく対立とはいえない部分もある。もっと多くのアクターが存在し、南北の枠を越えた連係がみられるからである。では、第三共和制のもとではどのような構図になるのだろうか。拙論では、過去の政党の動きを整理し、二つの政党が国民政党となりうる可能性を探るうえでの一助としたい。

1 過去の政治アクターの動き

1. 独立前

初めてナイジェリア人が政党を結成したのは、

立法審議会の再編、選挙制度導入という契機によるものであった。1923年、NNDP(ナイジェリア国民民主党)が、マコーレイ (Yoruba) によって創設された。NNDPは、ラゴスから選出される3名の立法審議会議員の議席を、23年、28年、33年の選挙で獲得し、ラゴス政界の中心であった。

NNDPの綱領には全国的規模の性格をもつと主張されていたが、その基盤は南部キリスト教地域に限定され、実際の活動はラゴス中心であった。またそれがあまりにも保守的であったため、より若い指導者たちは1936年にNYM (ナイジェリア青年運動) を結成することになる。NYMの基盤はNNDPと変わらなかったが、民族的偏りもなく、南部の政治的指導者のほとんどが同じ旗印の下で活動した最後の政党であった。

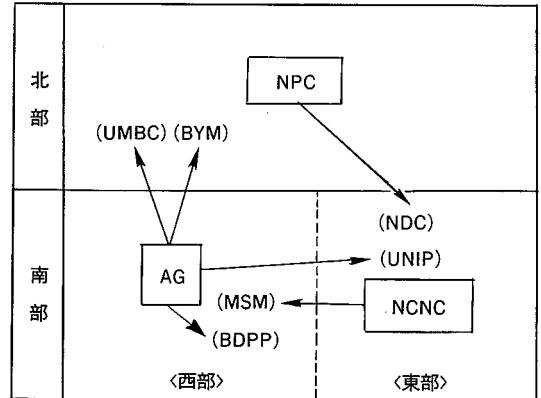
次に成立したのが、マコーレイが総裁、アジキウエ (Ibo) が書記長という形をとったNCNC (ナイジェリア=カメルーン国民会議、1961年にナイジェリア市民国民会議と改称) である。しかし、当初は国民政党としてスタートしたNCNCも、46～48年にかけてYorubaとIboの緊張が高まり、次第にIbo色を強めていった。

他方、1945年に結成されたYorubaの非政治団体Egbe Omo Oduduwa (オドゥドゥワ [Yorubaの伝説上の祖先]の子孫たちの協会) と、南部に対抗して (YorubaのEgbe Omo OduduwaやIboのIbo Unionを意識して) 49年に結成された北部(Hausa-Fulani)の組織は、51年のマクファーソン憲法に基

づく中央議会選挙実施に伴い、それぞれ政治組織として、AG（行動党）、NPC（北部人民会議）に改編された。51年以降第一共和制にかけてナイジェリア政治の中心に立ったのが、このNCNC、AG、NPCである。3政党の総裁は、NCNCがアジキウェ（Ibo）、AGがアウオロウォ（Yoruba）、NPCがアフマド・ペロ（Fulani帝国の末裔ソコト世襲王子）であった。NPCは北部州（大部分がイスラム）、AGが西部州、NCNCが東部州を支持基盤としていた。ただし、この三大政党のほかに1951年以来多くの小政党が創設され、59年選挙には13の小政党が参加している。特に、自州内の大民族の支配に抵抗するマイノリティーを基盤とした政党の動きが活発にみられる。彼らは自民族が多数派となれるよう新州設立を要求しており、大民族の側は、自州内でのマイノリティーの要求は抑圧しつつ、他州のマイノリティーは支援するという政策をとっていたのである。以下、各州の主なマイノリティー政党をみていく。

まず北部州では、非Hausa-Fulani（Kanuri民族）であるBYM（ボルヌ青年運動）と、UMBC（統一ミドルベルト会議）が挙げられる。BYMの目的は東北州の設立にあったが、NPCの工作によって弱体化していった。一方、UMBCの基盤であるミドルベルト地帯は、北部州に属しているが非イスラム地域でありHausa語圏でもない。特に、この地方で有力なTiv民族は、長年にわたってミドルベルト州の設立を声高に主張し、UMBCをおしたてていた。しかし、NPCの指導者たちはこれを弾圧し、独立後まもなく起こったTivの反乱を鎮圧するため1966年のクーデターまで軍隊を駐屯させた。反NPC勢力としては、NEPU（北部人民進歩同盟）も挙げられる。これは、民族ではなくイデオロギーを基盤とする政党である。NPC創設当時の指導者の一人であったアミンヌ・カノ（Fulani）は、伝統的支配者

第1図 新州設立を求めるマイノリティーと大民族政党の関係



(注) →支持関係

層の権限の徹底的縮減を主張し、1950年にNEPUを結成した。NEPUはNCNCと協力関係にあり、NCNCはNEPUを通して北部のマイノリティー政党を支援していた。

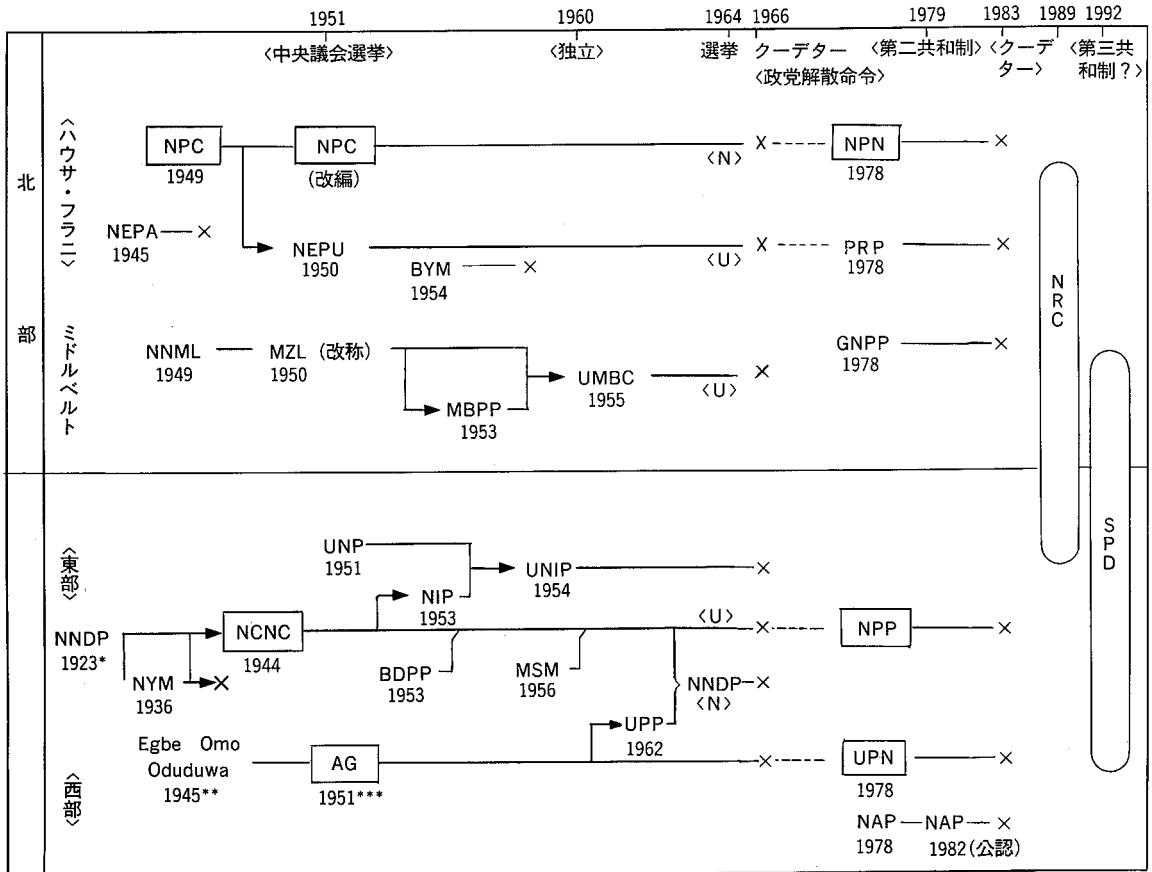
西部州では、1953年にBDPP（ベニン・デルタ人民党）、1956年にMSM（中西部州運動）が結成されたが、両者ともまもなくそれぞれAGとNCNCに吸収された。1963年には要求どおり中西部州（現ベンデル州）の設立を実現している。

東部州はUNIP（統一国民独立党）、NDC（ナイジャー・デルタ会議）を挙げることができよう。UNIPは、東部のCOR地域（カラバール、オゴジャ、リヴァース）が基盤であり、のちに12州制導入時に南東部州、リヴァース州の設立を実現した。NDCはIjaw民族を基盤とした政党である。1959年選挙ではNPCと協力した。

2. 第一共和制

独立当初は、NPCとNCNCの連立政府と野党のAG（+UMBC）という構図があった。この構図が揺らぎ始めたのは、西部州政府危機とセンサス論争による。まず西部州では、AGがアウオロウォ派

第2図 ナイジェリアの主要政党の変遷



┌: 分裂 (年は結成年) 丁: 合併, 併合 ×: 消滅, 解散 □: 三大政党

NEPA=北部人民進歩協会, NNML=北部非イスラム連盟, MZL=ミドルゾーン連盟, MBPP=ミドルベルト人民党, UNP=統一国民党, NIP=国民独立党, NRC=国民共和会議, SPD=社会民主党

<N>: NNA <U>: UPGA

*: 1922年結成という説もある。 **: 於ロンドン, ラゴスでは48年に結成。 ***: 50年に結成され51年に公認された。

とアキントラ (Yoruba) 派に分裂し、激しい対立が起こった。アキントラはUPP (統一人民党) を結成し、西部州内のNCNCの一派とNNDP (ナイジェリア国民民主党) を組織、西部州政府を支配した。連邦政府の危機は西部州の問題だけにおさまらなかった。1963年から、新たな火種が生じた。センサス論争である。62年に実施された人口センサス

は無効とされ、63年再び実施されたが、予想を裏切って北部の人口が南部を上回った。NCNCはセンサスの有効性に疑問を呈したが受け入れられず、連立崩壊へと向かったのがあった。

1964年連邦選挙では、NNA (ナイジェリア国民同盟) とUPGA (統一進歩大同盟) の対立となる。前者の構成は、北部保守派 (NPP), 西部保守派

(NNDP), 南部マイノリティー (反Ibo, MDF: 中西部民主戦線, NDC), 反NCNC勢力 (DP: ダイナミック党) であり, 後者の構成は, 北部急進派 (NEPU), ミドルベルト (UMBC) からなる北部進歩戦線と西部急進派 (AG), 東部 (Ibo, NCNC) からなる南部進歩戦線であった。

結果的には, 選挙を巡って対立が激化し, 1966年, クーデターによって第一共和制は崩壊した。

3. 第二共和制

政党の数は, 1979年選挙のときには5, 83年選挙ではそれらにNAP (ナイジェリア進歩党) が加わり6となった。

NPN (アパルトヘイト国民党), UPN (ナイジェリア統一党), NPP (ナイジェリア人民党) の前身はそれぞれ, 旧NPC, AG, NCNCである。これに, 北部のボルノ, ゴンゴラ両州を基盤とするGNPP (大ナイジェリア人民党), 北部のカノ, カドゥナ両州を基盤としてNEPUが前身であるPRP (人民救済党), NAPが加わった。

1979~81年までは, 政府側がNPNとNPP, 野党側がUPNという, 第一共和制初期とほぼ変わらない構図をとった。これが崩壊し, NPNとPPA (進歩諸党同盟, 1981年結成) の二極対立が一時できた。PPAは, UPN, NPP, PRPのImoudu派, GNPPのボルノ・ゴンゴラ両州の知事派による同盟であった。この二極対立の構成は, NPN側が, 北部保守派 (南部マイノリティーの一部を含む) であり, PPA

側が, 北部急進派, 西部, 東部 (Ibo) であった。結果的にはPPAが統一候補を選出できず解散。その後, PPP (NPP+GNPP) が結成されるがFEDECO (連邦選挙委員会) は登録を拒否した。83年, クーデターにより第二共和制も崩壊した。

おわりに

以上, 各党の得票数など紙面の都合で述べられなかったことも多いが, 独立以前から第二共和制までの政治のアクターの動きをみてきた。まず, 三大政党については, 党内対立もあり, 一枚岩とはいえないものの, 比較的安定した支持基盤をもっていたということがいえるだろう。そして, 二極構造になった場合, 大民族がそれぞれの連合の基幹となった。つまり, 一方の軸にはHausa-Fulaniの保守主義者がおり, 他方の軸にはYorubaとIboが存在する。これに対して, 連合の周辺部ではマイノリティーが三大民族間を揺れ動いている。こういった状況を見ると, ナイジェリアの政治を単純に南北/宗教対立とすることはできないようである。第三共和制でも, 将来的には二大政党が国民政党になるという可能性があるかもしれない。相手方のマイノリティーを味方につけ自己の支持基盤を広げていこうとする動き, つまり, 国民政党化の動きがみられるからである。

(とだ・まきこ/大阪大学大学院)